

2026年(令和8年)7月8日(水曜日)

早口市日をリノベーション

老朽屋台の改修へ

東北能開大 秋田校と協力
学生が聞き取り調査



出店者に聞き取り調査を行う学生たち（大館市早口）

早口一地域まち協

プロジェクトには秋田職業能力開発短期大学校（愛称・東北能開大秋田校）が協力。住居環境科の2年生3人が屋台のデザインと設計を担当し、施工は地元の建設会社が担う。事業には、市民の自主的な活性化策を後押しする市の「地域づくり協働推進支援事業費補助金（地域応援プラン）」を活用する。

市日には現在16の屋台ブースがあり、このうち2、3ブースの改修を想定している。雨漏りなどの直接的な被害はないものの、いずれも老朽化が進んでいる。

本年度は出店者や買い物客への聞き取り調査を行い、その結果を基に学生が屋台のデザインを作成。併せて6、7月に利用者アンケートを行い、買い物客のニーズを把握する。来年度は改修費用を募るクラウドファンディング（CF）を実施し、集まった寄付額に応じて屋台を発注する計画だ。

取り組みのきっかけは2年前。秋田県信用組合田代支店の前支店長が、早口駅前の活性化につながる事業として屋台改修を提案し、同科に設計・製作を依頼。昨冬には試作品が完成した。その後は同協議会が構想を引き継ぎ、実現に向けた活動を本年度から本格化させている。

6月19日に開かれた市日には、学生3人が出店者や買い物客を対象に聞き取り調査。一番と比べて変わったことは「市日を続ける上で困っていることは『市日に関する思いや印象に残っている出来事』など」と尋ね、屋台への要望や市日に対する思い、利用者のニーズを探っていた。

ゼミのリーダー、吉田爽真さん（19）は「市日に行くことはほとんどないのだけどいい経験になった。お客さんが少ない印象はあったが、とにかく人が温かい。安全性を重視してデザインしていきたい」と話した。

同協議会の富樫滋副会長は「少子高齢化で少しずつ寂れてきたが、学生さんたちの力を借りて新しく生まれ変わるような市日にしたい。昔のようないきわいが戻れば」と期待を込めた。

今月、調査結果を共有する報告会を開き、その内容を踏まえて学生が屋台のデザイン案を取りまとめる。屋台の設計、デザイン案は同短大の卒業制作として本年度中に完成させる予定。